

「生き生き農業体験」プロジェクト

取組概要

「農業体験」プロジェクトとして、4・5・6年生が野菜や米などの栽培活動に挑戦しました。保護者・地域の方々との作物の栽培・収穫・販売等の豊かな体験活動を通して、自分の成長を自覚し、自分に自信をもって物事に主体的にかかわる成功体験を楽しむことができる取組となりました。

1 学校の課題を探り

- 4年生（29人） 5年生（25人） 6年生（29人）
- 職員数 15名
- ボランティア 118名（延べ数）
- 本校の児童の全国学力・学習状況調査（6年生）やCRT標準学力検査（全学年）の結果を考察すると、自尊感情や学習の基盤となる学ぶ意欲が低いことが本校の課題であり、その改善が子どもたちの学力の向上と豊かな心の育成につながると捉えました。



生き生き農業体験！

2 目標を立て

- ☆ 黒田小校区で育てている作物を栽培する農業体験活動を通して、作物を育てる喜びを感じるとともに意欲をもつ。
- ☆ 保護者や地域ボランティアの、農業に対する思いや技術に触れることにより、主体的なかわりをもつことができる。
- ☆ 11月「黒田小学校こふん祭り」において、収穫した作物を料理したり、販売したりする体験やお世話になった人に感謝の気持ちを表現する活動を通して、達成感や成就感を味わう。



地域ボランティアの方々

3 綴って、ほめてみると

【目標設定】

(1) 「黒田小学校こふん祭り」で活用できる作物を栽培する目標を設定

黒田小学校は、校内に国指定文化財「橘塚古墳」を有しており、学校・地域の自慢であり誇りです。この古墳にちなみ、11月に「黒田小学校こふん祭り」を保護者・ゲストティチャー・地域の方に楽しんでもらうために行っています。参加者は、児童を含めると400名以上になる大きなお祭りです。この祭りに使用する米（たちばなっ子米）・野菜を栽培するために、「おいしいお米を作って地域の方に食べてもらい、喜んでもらう」や「こふん祭りが成功するようにおいしいお米を作る」、「新鮮な野菜を多くの人に届ける」などの個人目標を設定して農業体験活動に取り組むことにしました。栽培する野菜と（当日の料理等）を紹介します。

- 4年生 ごぼう・さつまいも（豚汁・ふかし芋）
- 5年生 たちばなっ子米・さといも・しょうが・じゃがいも（米販売・野菜販売・カレー・豚汁）
- 6年生 さといも・しょうが・じゃがいも（豚汁・カレー・餅つき配布）

児童が自分に合った目標設定を行う際には、それぞれ栽培する作物の地域のエキスパートにゲストティーチャーとしてアドバイスをもらったり、インタビュー活動を設定したりしました。オリジナルの農業カレンダーを作成し、栽培の工程ごとに、めあてをつくるようにしました。



自己目標の発表場面

5年 たちばなっ子米カレンダー 目標（ ）								
月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	11月
仕事	苗作り 田植え	肥料	水管理	除草	稲刈り 準備	天日干し 準備	稲刈り 袋詰め	販売 まとめ
めあて								

【挑む】

(2) 保護者・地域の方とともに挑む場を設定

<5年生 たちばなっ子米でこふん祭りを成功させよう！>  
米作りの中で、特によかったことは、まず、地域のゲストティチャーに、米作りについて学び、目標・計画を明確に立てることができたことです。また、田植えは、広い田んぼを半日かけて、泥まみれになりながら、自分たちの手で最初から最後まで、手植えました。この最後までがんばり抜いた体験は、素晴らしい勤労体験になりました。

稲刈りについても、最後の一本まで、全て手刈りできました。さらに、刈り取った稲を、竹竿にかけ天日干しする作業を体験しました。収穫は、何と「138kg」もあり、歓喜に沸きました。最終目標の11月の「こふん祭り」では、「たちばなっ子米」を販売すると同時に、学んだ米作りについて学年発表することができ、多くの人に自分達の頑張る姿を発信することができました。



田植えの様子



野菜の植え付け



米と野菜の販売



こふん祭り発表



天日干しの様子



稲刈り

【ほめる】

(3) 全校児童やボランティアによる賞賛の場を設定

保護者参加の集会において、5年生の販売収益金で、学校の必要備品を購入したことを伝えました。また、米作りや野菜作りの頑張りについても伝えました。子ども達は、地域の方々から賞賛を受けることにより、「これからも農業について学びたい」「来年は、今年よりもたくさん収穫したい」等、これからの活動に意欲満々でした。



地域の方による賞賛



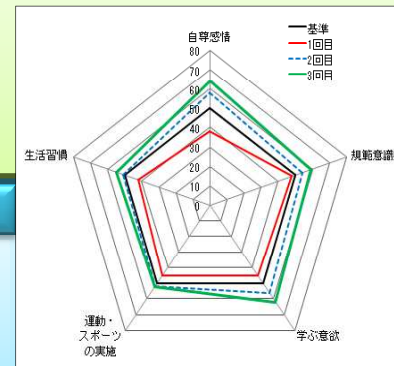
完売した収益金を全校へ寄付

4 こんな成果があった！

- SRT調査結果から、5年生の「自尊感情・学ぶ意欲」ともに、8ポイント向上し、成果が見えました。
- 児童が自分で決めた目標に向かって挑み、スモールステップで、地域のエキスパートに賞賛してもらったり、互いの良さを認め合ったりしたことで、他の学習にも自信をもって、積極的に取り組むようになりました。

5 ココがポイント！

- ① 目標を視覚化して意識させることが大切！  
いつ・何を・どのように頑張ればよいのか、視覚化したことが、意欲の持続につながりました。
- ② 身近なエキスパートの支援が効果的！  
身近な職人技をもった方の賞賛を受けることが、自信をもって挑戦することにつながりました。



「SRT尺度ツール」